

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 11 月 8 日  
東京電力株式会社

## <1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (11/8 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 1.8 m <sup>3</sup> /h	30.4 °C	105.6 kPa abs	A系: 1.19	vol%
		給水系: 約 2.9 m <sup>3</sup> /h			B系: 1.19	vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 4.4 m <sup>3</sup> /h	42.9 °C	6.50 kPa g	A系: 0.06	vol%
		給水系: 約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.04	vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系: 約 4.4 m <sup>3</sup> /h	42.6 °C	0.23 kPa g	A系: 0.20	vol%
		給水系: 約 1.8 m <sup>3</sup> /h			B系: 0.18	vol%

\*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

## <2. 使用済燃料プールの状況> (11/8 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	20.5 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	20.9 °C
3号機	循環冷却システム	停止中	17.3 °C*
4号機	循環冷却システム	運転中	30 °C

\*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

※ 冷却システム停止中のため、至近のデータ(11/6 5:00 現在)を記載。

【3号機】・11/6 9:53 使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、燃料プール内瓦礫撤去の事前調査として、当該冷却系停止時の燃料プール内視認性(透明度)変化を確認するため、同システムを停止(停止時プール水温度:17.5°C)。なお、停止期間は11月10日までを予定しており、プール水温度の上昇率は約0.17°C/hと評価していることから、運転上の制限値65°Cに対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題はない。

## <3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	11/3 10:14 ~ 11/8 9:32 移送実施
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	11/2 14:17 ~ 11/8 9:46 移送実施
	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 (プロセス主建屋)	11/8 12:31 ~ 移送実施中

## <4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (11/8 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

\*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

## <5. その他>

- H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- H24/10/23～ 1号機サプレッションチェンバ内への窒素ガス連続封入を開始。サプレッションチェンバ内の水素濃度を推定2%程度まで低くするために、連続封入期間は1ヶ月程度を予定。

以 上